2026 年期　第 6 回課題研究テーマ（東京）

17 班～24 班

テーマ	(1)あなたは監査チームの主査（インチャージ）として、3 月決算の広告代理店事業を営むクライアントを担当しています。近年、特定の取引先に対する売上高が急増しており、その要因について会社とディスカッションしても納得感のある回答が得られませんでした。（なお、前期に当該取引先に売掛金の残高確認書を発送しましたが、会社の認識額と回答金額に差異は認められませんでした。） これらの状況を踏まえ業務執行社員より収益に関しては循環取引のリスクに対応した監査手続きを検討し、慎重に検証してほしい旨の指示を受けました。 ① 循環取引のリスクに対応した手続きとして、あなたはどのような監査手続きを実施しますか。 （必要に応じて適当な前提条件等を設けて構いません。） ② ①の結果、異常な点が検出され、あなたは会社にその旨を伝えましたが、明確な回答をえられませんでした。その場合、次にどのような対応を行いますか。 ③ ②の後、会社が調査委員会を立ち上げ調査することになりました。その結果、本件が循環取引であることが発覚いたしました。（従業員が単独で実施していたものと仮定します。）その場合、経営者、監査役、監査人それぞれの立場からどのような対応が必要と考えますか。 （必要に応じて適当な前提条件等を設けて構いません。） (2)不正を未然に防止するために、経営者、監査役、監査人がそれぞれの立場で独立性を保ちながら緊密に連携することの重要性について、あなたの考えを述べなさい。